

令和四年度学力検査問題

国語 ② (教育学部・医学部看護学科)前期日程

(問題紙 一〜二十二ページ 別紙解答用紙枚数 一枚)

解答時間 一〇〇分

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二、本冊子のページ数は右に示したとおりである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがある場合は申し出ること。
- 三、解答はすべて別紙解答用紙のそれぞれの解答欄に記入すること。
- 四、解答用紙の指定された欄(二箇所)に、忘れずに本学の受験番号を記入すること。
- 五、試験場内で配布された問題冊子は試験終了後持ち帰ること。

一

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。（\*は本文の後に注があることを示す。）

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

(山崎正和「哲学漫想4 リズムの発現と言語文明」より)

〔注〕 \* 順時Ⅱ時間の流れに従った、順番通りの

\* 連綿体Ⅱ書道で各文字の間が切れずに続けて書かれている書体。

問一 この文章を二つに分けるとすれば、後半はどこから始まるか。その最初の五字を抜き出さない。

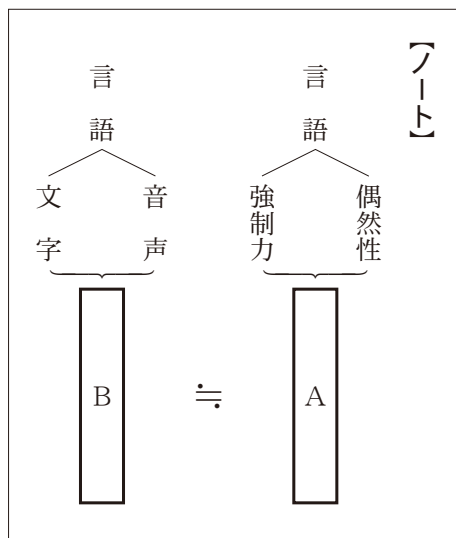
問二 X に当てはまる最も適切な語句を、次の選択肢の中から一つ選んで、その記号を記しなさい。

ア 客観      イ 経験      ウ 恣意      エ 典型      オ 補足

問三 傍線部①「破られた結果が強制力を発揮し、新しい習慣の規則性を固めようとする」とはどういうことか。「ら抜き言葉」を例として、八〇字以内で具体的に述べなさい。

問四 傍線部②「音声の順時態のなかに切れ目という同時態があり」とあるが、同時性を含むものとして音声をとらえることができるのはなぜか。六〇字以内で述べなさい。

問五 左は、ある生徒がこの文章の要旨をまとめるために整理した【ノート】の一部である。も適当な語句を、本文中からそれぞれ一〇字以内で抜き出しなさい。



A

・  
B

に入る最

二

次の文章は、中島京子の小説『やさしい猫』の一部である。以下の【本文までのあらすじ】とそれに続く【本文】を読んで、後の設問に答えなさい。（\*は本文の後に注があることを示す。）

著作権の関係上、公表しません。



著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

# 著作権の関係上、公表しません。

(中島京子『やさしい猫』新聞連載版より。出題に際し原文の一部を省略した。)

〔注〕

\*ビザ⇨入国や在留を希望する外国人に対して、正当な理由と資格があることを証明するもの。

\*シンハラ語⇨スリランカの公用語の一つ。

\*オーバーステイ⇨在留期限が切れても、在留資格の変更や在留期間の更新などをせず滞りし続けること。

\*サウイマンとナヤナ⇨クマさんの友人であるスリランカ人夫婦の名前。

問一

a

e

のカタカナを漢字に改め、かひしよ楷書で丁寧<sup>かひしよ</sup>に書きなさい。

問二

傍線部①「審理官はつまらなそうな顔をして」とあるが、なぜ「つまらなそうな顔」をしていたのか。〔中略〕以降の審理官の発言をふまえて、六〇字以内で述べなさい。

問三

傍線部②「うんうんとしきりにうなずいた」とあるが、それはなぜか。その理由を説明した次の文章の空欄に当てはまる最も適当な語句を、本文中から六字で抜き出さなさい。

審理官は、ミユキさんがクマさんのプロポーズを受諾したのは

X

であると合点したから。

X

に

問四 傍線部③「自分たちが蜘蛛の巣にひっかかった蛾みたいな気がしてきた」とあるが、それはどういうことか。六〇字以内で述べなさい。

問五 傍線部④「言われていることが、自分の経験したこととまるっきり違うとは思わないのだけれど、なにか決定的に、自分の思いとはかけ離れている。」とあるが、直前の審理官による供述内容の要約とミユキさんの「思い」はどのような点において「かけ離れている」のか。その相違点を一〇〇字以内で三つ説明しなさい。

著作権の関係上、公表しません。



三

次の文章は、平安時代の代表的な仏師（仏像などの制作者）である定朝じよちゆうの、【A】青年時代と、【B】壮年時代の説話である。【A】は、藤原道長が九体の阿弥陀像あみだを造立し、僧の行列を組んで音楽を演奏しながら法成寺阿弥陀堂に運びこませて、安置した時の話、【B】は、定朝が左近府から舞樂に使う面の制作を依頼された際の話である。これらを読んで、後の設問に答えなさい。（\*は本文の後に注があることを示す。また、設問の都合で、本文を一部省略し、表記等を変えたところがある。）

著作権の関係上、公表しません。

## 著作権の関係上、公表しません。

(『古事談』より)

〔注〕

【A】\*御堂||ここでは、藤原道長のこと。平安時代の貴族で、左大臣、摂政を務めるなど、政権を握った。

\*康尚||藤原道長に重用された仏師。定朝の師でもあり、父でもあるとされる。

\*麻柱||高い所に登るための足場。

【B】\*覚助||定朝の弟子でもあり、子でもあるとされる仏師。

\*義絶||親子の関係を絶つこと。

\*他行||外出

\*左近府||天皇の親衛隊である左近衛府のこと。この時代には、音楽や舞楽などに関する役割も担った。

\*陵王の面||舞楽の曲の一つである「陵王」に使う面。

\*褻居||居間

\*むずむずと||気がねせずにひたすら行う様子。

\*しれもの||ばか者。勘当中の子をけなして言っている。

\*奇怪なる||けしからん

問一 二重傍線部 a「来たり」、b「打ち出だし」、c「他行」について、それぞれの動作主(主語)は誰か、選択肢の中から選んで、その記号を記しなさい。同じ記号を複数回用いてもよい。

ア 覚助      イ 左近府の役人      ウ 定朝      エ 母      オ 筆者

問二 傍線部①に「其の後、おぼえつきて、世の逸物に成りたり」とあるが、道長は、定朝のどのような点を高く評価したのか。次の選択肢の中から、正しいと考えられるものを三つ選んで、その記号を記しなさい。

ア 金箔きんぱくまで貼って完成した仏像なのに、さらによくするために手を入れた点。

イ 康尚から手直しの仕方を少しも聞くことなく直すことができた点。

ウ 康尚に命令されると、口答えすることなく、すぐに仕事にかかった点。

エ 高い足場の上でも恐れることなく、自由に道具を使えた点。

オ 道長が造らせた仏像を、その面前で遠慮なく削り直した点。

問三 傍線部②「奉られたらましかば、あさましからまし」を現代語訳しなさい。

問四 傍線部③「勘当を免さしむ」で、定朝が勘当を許した理由として、覚助の手直しがすばらしかったこと他に、作品の制作に向き合う際の態度が、若い頃の自分に似ているからだと考えられる。どのように似ているのか、四〇字以内で説明しなさい。

四

次の文章は、狐の妖怪である任子じんしの話の一部である。人間の女に化けて鄭子ていしの妾となった任子は、二人で崆こんの世話になっていた。ある日、任子は鄭子に同行して馬嵬ばかいを訪れた。本文を読んで、後の設問に答えなさい。（\*は本文の後に注があることを示す。また、設問の都合で、送り仮名を省いたところがある。）

著作権の関係上、公表しません。

（『唐代伝奇』より）

〔注〕

\* 旬餘 || 十日余り

\* 泫然 || 涙をこぼして泣く

\* 慟 || 大声で泣く

\* 相持 || 手を取り合う

\* 疾故 || 病氣、わざわいの意。

\* 駕 || 馬車を用意する

\* 発瘞 || 墓を掘り返す

\* 追思 || 過去のことを思い起こす

問一 二重傍線部 a、b、c の読みを、送り仮名も含めて答えなさい。(現代仮名遣いでよい。)

問二 傍線部①を現代語訳しなさい。

問三 傍線部②を全て平仮名で書き下しなさい。

問四 傍線部③について、崙はなぜ驚き怪しみ嘆息したのか。第二段落での彼の行動に留意して、四〇字以内で説明しなさい。